

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

滿鐵調查報告

第三輯

23

滿鐵調查資料 第二十七編

最近支那主要
港に於ける
仲繼貿易と大連港

南滿洲鐵道株式會社

庶務部調查課

凡 例

一、本篇は主として、大連が仲繼貿易港として、他の支那主要港に比し、現在如何なる程度にまで活用されつゝあるか、また、將來これが發展助長策として如何なる方途に出づるを妥當とすべきかの問題に、聊か觸れて見やうとしたものである。併し乍ら之に對して參考すべき適切なる當面の資料を得なかつたのみならず、實際上の經驗に乏しく、爲めに遺憾ながら唯だありあはせの税關統計を基礎として、その大體を通觀したに過ぎぬ。依つて詳細は他日を俟つて補成することにした。

本稿執筆に當り、課内諸氏が多くの便宜を吝まれざりしのみならず、書中添附の大連及支那主要港に於ける總輸入額對再輸出額比較圖表は課員越山宣勝、高橋照雄兩氏の勞になりたるものであるが、これ筆者の特に深謝するところである。

大正十三年一月

調査課にて

大 倉 一 郎

最近支那主要
港に於ける 仲繼貿易と大連港

目 次

凡 例

大連及支那主要港に於ける總輸入額對再輸出比較圖

第一章 緒 言	一
---------	---

第二章 外國品の輸入と大連	七
---------------	---

第一節 輸入貿易と外國品	七
--------------	---

附支那主要港別輸入額對外國品輸入額比較表

第二節 外國品の直接取引	一〇
--------------	----

附外國品總輸入額對直接輸入額比較表

第三節 外國品の間接取引	一三
--------------	----

附外國品總輸入額對支那諸港經由輸入額比較表

第四節 直接取引の擴張と大連港	一六
-----------------	----

目 次

一

目 次

二

第三章 支那主要港に於ける仲繼貿易……………一九

第一節 輸移入貿易と仲繼貿易……………一九

附各港別輸移入總額對再輸移出額比較表(大正十、十一兩年)

第二節 仲繼貿易と各港の割合……………二三

附大正十、十一兩年各港別再輸移出比較表

第三節 仲繼貿易と外國品……………二六

附各港別再輸移出總額對外國品再輸移出比較表

第四節 外國品の仲繼と仕向狀態……………二八

附各港別外國品再輸移出對外國及支那諸港仕向比較表

第五節 外國品の仲繼と外國仕向……………三一

第一項 各港の仕向範圍……………三二

第二項 各港の仕向狀態……………三四

附仕向國別各港再輸出明細表

第四章 大連港に於ける仲繼貿易……………四三

第一節 一般概況	四三
----------	----

附總輸入額對再輸出總額累年比較表

第二節 最近に於ける仕向狀態	四五
----------------	----

附大正十、十一兩年再輸出額品種別比較表

第三節 再輸移出品の内容	四八
--------------	----

附品目及仕向別再輸移出明細表(大正十、十一兩年)

第五章 外國品の仲繼	五三
------------	----

第一節 概況	五三
--------	----

附大正十、十一兩年外國品再輸移出比較表

第二節 仕向内容	五六
----------	----

附仕向別外國品再輸移出明細表(大正十、十一兩年)

第三節 外國仕向の外國品	五九
--------------	----

附大正十、十一兩年外國品外國仕向比較表

第一項 仕向國別外國品再輸出狀態	六二
------------------	----

目次

目次

四

附大正十、十一兩年仕向國別外國品再輸出比較表

第二項 品種別外國品仕向狀態

六五

附品種及仕向國別外國品再輸出明細表(大正十、十一兩年)

第四節 支那諸港仕向の外國品

七七

附大正十、十一兩年支那諸港仕向再移出比較表

第一項 仕向國別外國品再輸出狀態

八〇

附大正十、十一兩年仕向諸港別外國品再輸出比較表

第二項 品種別外國品支那諸港仕向狀態

八二

附品種及仕向港別外國品再輸移出明細表(大正十、十一兩年)

第六章 支那品の伸繼

九五

第一節 概況

九五

附大正十、十一兩年支那品再移出比較表

第二節 仕向内容

九八

附仕向別支那品再移出明細表(大正十、十一兩年)

第三節 外國仕向の支那品……………一〇一

附 大正十、十一兩年外國仕向支那品再輸出比較表

第一項 仕向國別外國品再移出狀態……………一〇四

附 大正十、十一兩年仕向國別支那品再輸出比較表

第二項 品種別支那品仕向狀態……………一〇六

附 品種及仕向國別支那品再輸出明細表(大正十、十一兩年)

第四節 支那諸港仕向の支那品……………一一八

附 大正十、十一兩年支那品諸港仕向再移出比較表

第一項 仕向港別再移出狀態……………一二一

附 大正十、十一兩年仕向港別支那品再移出比較表

第二項 品種別仕向狀態……………一二三

附 品種及仕向港別支那品再移出明細表(大正十、十一兩年)

第七章 戎克船の仲繼貿易……………一三五

第一節 概況……………一三五

目 附

五

目次

六

附大正十、十一兩年戎克船再移出比較表

第二節 仕向狀態

一三八

附仕向地及品種別再移出明細表(大正十、十兩年)

第八章 結言

一四五

目次終

最近支那主要
港に於ける

仲繼貿易と大連港

調査課員 大 倉 一 郎

第一章 緒 言

大連港に於ける仲繼貿易を見るに當つて、先づ第一に閑却してならぬことは、大連港の東亞に於ける存在意義並に仲繼貿易港としての存在的基础が那邊に置かれるあるか、また那邊に置かなければならぬかといふことである。而して大連港の現在に於ける存立的基础に就て言へば、その觀方に依つては複雑多岐であつて、單純なるものにはあらざるも、之を滿蒙の經濟的發展の上から見ると、先づ第一に滿蒙の經濟的生命であり且つ源泉であるところの、特產物の輸出貿易に任するが如きこれである。即ち此等特產物の輸出貿易の堅實なる發展は、それ丈け滿蒙の堅實なる伸展を意味するものであつて、大連港が此の重責を完全に盡すと盡さ

第一章 緒 言

一

第二章 緒言

二

るとは、繋つて滿蒙の消長に關する問題となるのである。また一方之を對內的に言へば、此等輸出特産物の生産並にこれに關聯して各種産業の經濟的勃興發達上極めて重要な意義を爲すものは、外國物資の輸入即ちこれである。爾來滿蒙がその開發上之に要したる智力、資本及機械力等既に莫大なるものなりしは多言を要せざるところであつて、此等の大部分は總て皆な外國より仰げるところのものである。斯の如く、外國物資の輸入供給といふことが、滿蒙の經濟的發展に於てのみならず、道義的に於てもまた如何に重大で且つ切實なる條件であるかは、これまた今更多言を要せざるところのものである。従つて、之が供給の爲めに吸收選擇の任に當るものとつては、容易ならざる責務であるとしなければならぬ。これ即ち大連港の今日ある所以であつて、また今後に於ても他港に比し最も重きを置かざるべからざるところである。

然らば、滿蒙に於ける此等必需品の供給には、現在如何なる方面より如何なる方法と徑路とに依つて爲されつゝあるかといふに、這は大部分を擧げて海路より直接又は間接即ち他港經由に依つてその需要を充たしつゝある次第である。而して之が輸入に就ては、輸出に於けるが如く、大連が今日滿蒙唯一の咽喉として世界

の各市場にその進展の歩を伸しつゝあるところであつて、これ大連港の輸入貨物が大部分外國品に依つて充されつゝある所以なのである。

併し乍ら此等外國物資の輸入上茲に閑却してならぬことは、需要品が直接生産地より輸入さるゝもの以外、他港經由に依つて間接に輸入供給を見るもの尠なからざる額に上りつゝあるといふことである。尤も此の他港經由の物資が唯だ單に貨物移動の徑路にその差を生ずる丈けの意味であるならば、必らずも、而かく重大視するの要はなきも、若し一步進んで經由港が能動的に大連港の輸入貨物を吸收するが如き舉に出づるとしたならば、これ由々しき大事であつて、大連港の貿易が常に他の傘下に跼蹐して唯だ單に一地方的色彩を帯びなければならぬ。従つて大連が、世界市場に向つて何等の自由も權能もなくなることになる。即ち需要貨物に對して有利に選擇し得るの能力と供給權とを持たぬことになるのである。されば結局之に依つて生ずる不利は繋つて一般需要者の福利の上に及ぼして來るは明かである。

斯くの如きは、これ滿蒙の福利増進を先づ第一の主眼としてその基礎の上に立てる大連としては、輕々に看過し得ざる重大事項であらねばならぬ。故に今後大

第二章 緒言

四

連港として採らざるべからざる方途は、輸入貨物の直接取引を擴大伸長すると共に、更に一步を進めて直接取引から受くる利益をして、滿蒙は勿論、これ以外の他市場にまでも均霑せしむるの良策に出でなければならぬ。即ち輸入さるゝ商品をして中間の諸掛や手数料を省き、之が爲めに生ずる原價の低減等を以て、對外的に同種類の商品に對し、常に優越の地歩を占むると同時に、對內的には、滿蒙は更なり、尠なくとも附近港たる北支那沿岸諸港圈内諸市場にまでもその利益を均霑せしむるが如きこれである。以て大連は常に一個獨立の立場即ち自由港なる本來の機能を發揮して、滿蒙は更なり、これ以外の他地方に於ける需要貨物の吸収に當り之を集中統一して以て最も有利に供給するの選擇權を有たなければならぬ。これ大連港が今後その擴大の手を擴げ、伸展の歩を進め得る可能的目標であつて、最も考察を要する點である。勿論之が實現の爲めには、これに必須なる諸設備、即ち取引機關、金融機關、海運等、その施設を要するもの多々あるべしとするも、之を要するに世界市場に向つて廣く且つ自由にその貿易上に於ける優越の地歩を占め、以て大に直接取引の伸展を計ると同時に、これによりて生ずる利益を滿蒙以外にまでも均霑せしむる意味に於て更に伸繼貿易の擴大伸展を企圖するはこれ目下の

急務であらねばならぬ。

然らば、大連港が叙上の意味に於て現在如何なる状態にあるか、即ち世界市場並に支那本土諸港に對する直接及間接取引、並に仲繼貿易港としてその能力が如何なる程度にまで活用されつつあるかといふ問題は當然起らざるべからざるところである。これ滿蒙の利益を主眼としてその利便を他に均霑せしめんとする大連港としては當然閑却し得ざる事項であつて、大連港に於ける直接取引並に仲繼貿易の重大視せざるべからざる所以なのである。

仍て、以下支那大陸主要諸港に於ける此等の状態を検して之に對する大連港の直接取引及仲繼貿易が如何なる地位と状態とにあるかを窺ふことにする。

第一章 緒言

五

第一章 緒言

六

第二章 外國品の輸移入と大連

第一節 輸入貿易と外國品

滿蒙の經濟的開發上、外國物資の輸入が極めて重大なる意義を有するは、既述の通りであるが、然らば、その輸入上多大の責任と意義を有する大連港が、現在その事實に於て如何なる状態にあるかといふに、大正十年に於て總輸移入額一〇〇、〇九一、六九一兩中、外國品が八四、二三六、六一八兩で、總輸移入額の八割四分二厘、翌十一年には總輸移入額九二、九九九、一七三兩中、外國品が七七、〇一〇、一七七兩で、八割二分七厘といふ多額を占めてゐる。

然らば此等の状態は大連に於てのみ見る特別の現象であるかといふに、這是決してさうではない。矢張附近港並に支那本土主要諸港に於ても外國品の輸入といふことは、頗る重大な意義を以てゐる。依つていま、之を數字上に現はして見ると、大正十一年に於ける此等主要港の總輸移入額對外國品輸入額の割合は、南滿では、前記大連の外營口が八割九分八厘、安東が八割七分五厘、支那本土では天津が七

第二章 外國品の輸移入と大連

八

割二分五厘、芝罘が三割八分六厘、青島が七割〇五厘、上海が六割二分二厘、漢口が五割九分二厘、廣東が五割四分八厘である。之に依つて見るも、南滿三港が比較的支那本土諸港よりも多率の外國品を消化しつゝあるといふことが解る。

斯の如く南滿に於ける諸港の外國品輸入率は、支那本土諸港のそれに比して多額を占めつゝあるのであるが、これ何故であるかといふに、這是主として原料品の生産以外滿蒙に於ける諸工業が未だ發達の域に達せず、その必要品の大部分を擧げて他國からの供給に俟たざるを得ざる状態にあるからである。これ大連港が此の間にあつてその貿易上對外的にも對內的にも先づ第一に滿蒙自體の福利そのものの上にその發展の基礎を置く以上、滿蒙に於ける生産物の輸出並に必需品の吸收選擇に就ては最も責任のある地位にある所以である。従つて之に對しては最も深甚の注意と考慮とを拂はざるべからざるところである。即ち各種必需品の輸入に就ては輸出貨物と同じく、成可く廣く且つ自由にその供給の途を開き、而してその品質の優良と價格の低廉とを期し以て一般需要者の便を計らざるべからざるは多言を要せざるところである。さればこれが輸入方法に就ても出來得る丈け他港經由等を避け、直接取引を盛んにして中間に於ける手數と費用とを